

## 令和7年度第3回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

1 開催日時 令和8年3月10日(火) 午後2時00分開会

2 開催場所 郷土博物館 研修室

3 出席委員

|      |       |    |        |
|------|-------|----|--------|
| 委員長  | 友田 賢司 | 委員 | 加藤 正人  |
| 副委員長 | 唐木 義昭 | 委員 | 木曾野 真紀 |
| 委員   | 前沢 幸雄 | 委員 | 地引 尚幸  |
| 委員   | 山田 悟  | 委員 | 近藤 敏   |
| 委員   | 今井 恵子 | 委員 | 高橋 久   |

4 出席職員

|        |        |     |        |
|--------|--------|-----|--------|
| 教育長    | 鴫田 道雄  | 主幹  | 稲葉 理恵  |
| 生涯学習課長 | 長谷川 秀明 | 主幹  | 桐村 久美子 |
| 顧問     | 稲木 章宏  | 学芸員 | 鎌田 望里  |
| 館長     | 西原 崇浩  |     |        |

5 傍聴定員と傍聴人数

|      |    |
|------|----|
| 傍聴定員 | 5人 |
| 傍聴人数 | 0人 |

6 議題

- (1) 令和7年度郷土博物館事業の成果と課題について
- (2) 令和8年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに令和8年度事業計画(案)について
- (3) その他

7 議事

友田委員長 では、議題（１）令和７年度郷土博物館事業の成果と課題について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 資料に基づき説明

友田委員長 議題（７）令和７年度郷土博物館事業の成果と課題について、何か質問ありませんか。

唐木副委員長 考古学講座は、年間５回やっているが、これまでに参加した人はかなりいると思われる。参加者はやはり専門的なものを博物館に期待していると思うが、博物館はこの人たちに何を伝えるか。講座で学んだ人たちを博物館はどういう風に活用するのか。せっかく学んだのだから、何かやってもらいたいという意図はあるのか。

もう１つは、やってくれて良かったなと思っているのが、博物館の入り口に月の予定表が貼り出してあるが、博物館で何をやっているかがわかりやすい。非常にいいことやっているなと思った。これは何月からやっているのか。これからも続けてもらいたい。

西原館長 まず考古学講座ですが、これは自分が発案して始めたもので、きっかけは山野貝塚が国史跡になって、その周知も含めて始めました。山野貝塚とともにその縄文時代のことを勉強して、知ってもらおうという考えで、当初は３年ぐらい講座を実施した後、その参加者に博物館でサークル活動をしていただこうかなという考えもあったのですが、３年ぐらい経った段階で、こういう風に考えてるんだけどという話をしたのですが、サークル活動までは繋がらなかった。その段階で１回やめようかなと思ったのですが、博物館は今まで専門講座が少なかったものですから、考古学に特化した専門の講座をもう少し継続してみようと考え、次は弥生時代と続け、現在古墳時代で２年目になるところです。ある程度固定の参加者が２０名ぐらいいて今年は４０名ほど申し込みがありました。現在の参加者に一区切りにつくのが、来年くらいになろうかと思います。それまでの間は専門的に考古学について学んでもらおうかと思っています。

また要望により、今、古墳時代まで来ているので、次に奈良平安時代をや

るという考えもありますし、またもうちょっと視点を変えて、トピックス的な内容にするとか、時代に限らず、その都度テーマを設定して深掘りするというのもいいかなという風に思っています。またどこかのタイミングでサークル活動につなげればいいのかと思っていますので、投げかけはしていきたいと思っていますところでは。

予定表ですが、これについては会計年度任用職員の発案で始まりました。時期的には今年度の初めか、昨年度の終わりくらいからで、まだ1年くらいです。

**高橋委員** 同じ項目にミュージアムフェスティバルの参加人数が2, 213人とあるが、前年に比べて増えているのか。

**事務局** 前年度に比べると増えてはいないです。減っています。

**高橋委員** 自分は増えているのではないかと思った。この時に駅からハイキングをやっていましたが、そのようなイベントをやってもそんなに増えないということでしょうか。イベント自体もコラボしてやったのかわからないのですが、あれはいいと思ったので。

**西原館長** この時には、県からイベントについて連絡はもらっています。これは1週間くらい期間があって、その中に当館が入っている形でした。あのような形で博物館も含めてもらえれば、宣伝効果もあっていいかと思います。

**事務局** 駅からハイキングは、一緒にやると相乗効果はあるとは思いますが、ミュージアムフェスティバルの場合は来て色々体験するというのが目的なので、参加者の滞在時間が結構長くなります。ですので、ハイキングの途中で立ち寄るという方とは少し目的が違うかもしれないと考えてはおります。

**木曾野委員** 駅からハイキング、フェスティバルの時に歩いてみたのですが、全体の行程が8kmか9kmあって、その真ん中くらいなので、この先も長いと思うと

あまり、ゆっくり入ってみていくかという感じでもなかったですね。

でも地域の人ではない方がたくさん歩いていて、こんな所があるんだ、袖ヶ浦公園もいいね、などと言いながら、みんな歩いていたので、ここに博物館があるという宣伝にはとても良かったと思います。ただ、やはり真ん中あたりだったので、入って見ていくかとなった人が多かったかどうかはよくわかりません。

**友田委員長** でもまた来てみようという話になったかもしれないですね。

**西原館長** 服装でハイキングの人はわかりやすかったので、受付の段階で別カウントするのが良かったなと思います。

**加藤委員** 次年度のPRになったと思います。

**木曾野委員** 市の観光協会は関わっているんですか。駅で降りたら、駅からハイキングという受付があって、地図を渡されて自分で回ってくださいというものだったですけど、あの配っていた方が観光協会の人でしょうか。

**事務局** 観光協会も共催なので、そうだと思います。

**今井委員** 上総掘りの体験事業が現在できないという話がありましたけれど、上総掘りの財産は市のものですか。県のものですか。

**西原館長** 市です。

**今井委員** では、破損した部分を修理しようということになったら、予算は市になりますね。

**西原館長** そうです。それが破損していて大掛かりな修理が必要になるというのがわかったのが年度末になってからで、来年度の予算を組んだ後だったので、現

時点では、修復のための新たな部材を購入して足場を組み直すという予算がないので、どこかの段階で補正をするなり検討する必要があります。そうでないと、まずミュージアムフェスティバルで体験会ができない。ここで体験することによって、普段触れていない方々が上総掘りはこういうものだとわかるので、それができないのは問題かなと思います。

今回の要因は虫食いだっただんですけど、今までそういったことがなかったもので、その原因がちょっと分からなくて、この夏のひどく暑かったところにシロアリみたいなものがついたのかなと思います。今まで腐るということはあったんですけど、今回は腐ったんじゃなくてシロアリでしたので。

今井委員 防虫は。

西原館長 今までやってなかったのですが、今後はそういうこともしないとけないと思います。

今井委員 今は3月ですから、6月のフェスティバルまでにできればやりたいですね。それから情報ですが、今日配られた資料にのっている辻永さん、この方のお孫さんに当たられる方が辻章さんと言って、袖ヶ浦市にお住いの小説家でした。図書館は何回か講座でお世話になりました。その章さんから永さんの画集を贈られて、図書館の郷土資料のコーナーに置いてあります。

地引委員 社会教育機関での私の経験ですが、1ページ目、ここに石造物の調査について書いてありまして、特に庚申塔や馬乗り馬頭観音の調査を進めることができたということですが、この成果は拝見できるのか、どこかで公開されるのかというのが1点、2点目は、午前中、私、奈良輪の調査をしてたのですが、図書館にも行ったら、奈良輪漁協については博物館でお聞きになったらどうですかと言われたのですが、ちょうどここにデータベース化の話があるので、いつ頃からそれが見られるのかをお聞きしたい。

3ページ目のボランティアの要請と支援のところ、寺社案内マップも4月から新たに会を作るとありますが、調査などで伺うと、お寺等の方から、

来るのは構わないんだけどバチバチ写真撮るのは仏様にとって失礼だっていう話をされることもあって、決して意地悪ではないのですが、仏様を敬ってくださいという話なので、十分おわかりになっているとは思いますが、そういうお叱りがあることもあるので、お気を付けください。

## 事務局

まず、石造物の報告ですが、地域文化財報告書という名前で、加藤委員が中心となって活動されている市民学芸員郷土を学ぶ会の方で調べられました成果を報告書の形で刊行するというところで進めているところです。刊行いたしましたら、委員の皆様にはお届けいたしますので、少々お待ちください。

次のデータベースの話ですが、現在公開して博物館のホームページから見られるようになっているのが、PDFのデータなので、こちらを検索できるExcelのデータで公開しようということで準備を進めております。古文書などを既に冊子で目録が刊行されており、その目録の内容のままでExcelのデータにはしてありますが、これをそのまま公開してしまいますと、現在博物館にない返してしまった資料も含まれますので、それらについては除く形で、現在博物館にある、博物館で閲覧できるものだけに絞って公開しようとしておりますので、もうしばらく準備の時間をいただきたいと思っております。準備が整い次第公開していきたいと思っておりますので、こちらも今しばらくお待ちいただければと思います。

また、市民学芸員の案内マップのお話もアドバイスありがとうございます。こちらにつきましては、市民学芸養成講座の一環で、よその博物館を見に行こうという回があるのですが、昨年その講座で館山市立博物館を見学いたしました時に、館山市博のボランティア「絵図士」の方たちの活動に多くの参加者が感銘を受けまして、見学に行った方たちがかなり影響を受けまして、直後から有志で活動を始めた方もいらっしゃいました。最初に作成した国勝神社は出来上がっていて、お見せできる状態にはなっております。こちらは近々ミニ展示などで公開し、無料配布していく予定です。これは担当した市民学芸員が国勝神社の氏子さんたちにもお話を聞いて作成し、先に神社や氏子にはお渡しし、見ていただいております。今後もよく注意して、地元の方の信仰心を傷つけないように、神社やお寺の迷惑にならないといったような

こと徹底させていきたいと思っております。

**地引委員** さっき奈良輪漁協の話をしました。今実は奈良輪について調査しているのですが、今、なぜ奈良輪の調査を始めたかという、市原市で更級日記千年紀文学賞というのをやっていて、それで今年度の受賞作にこの奈良輪の「ホシコ」、ホシコとは海苔を干す、僕たちは「ホシカエシ」というのですが、この辺りでは、ホシコ、干し娘とみんな使っているようです。この干し娘をやった今90歳の女性が昭和29年の話を書いております。この方は当時18歳で、奈良輪に連れて行かれてるんですけど、行く場所を知らないで連れていかれて、でも誘拐というわけではなく、ちゃんとした仕事で、1日正規で4,000円くらいもらって、当時4,000円は大きいですね。この話を鶴岡和歌さんという方が「干し娘物語」として書いています。これは小説ではなくエッセイなので、事実をまとめて書いたものです。袖ヶ浦の図書館にも入っていると思います。

**友田委員長** 他にありますか。

**木曾野委員** Xの情報発信についてですが、友人にいろいろな博物館のツイートを見ている人がいて、遠野市立博物館が今、結構バズっているそうです。月2回くらい情報発信するようにしていて、博物館だけじゃなくて博物館周辺のことでもツイートしているらしいです。それで、こちらでも6月からインスタとXの方始めてますけど、昨日数えたらツイートは27回だったので、もうちょっとやってもいいのではないかと思います。

例えば、企画展の「村の暮らしと一大事」で展示していた資料で、酔っ払った男性が、木更津の方で酒飲んでふらふらと帰ってきて、木に登って人に迷惑かけたとか、あの話などは読みながら声をあげて笑ってしまうほどおもしろかったのも、こういうのをこんな資料がありますということで、ツイートしていったらいいのではないかと思います。展示物がこんなにおもしろいですよというのを、もっと出してもいいのではないのでしょうか。

**事務局** 収蔵資料や展示物の紹介はホームページの方で「そではく見てみてコレクション」略して「見てコレ」というコーナーで公開しているのですが、実際見ていただけるとよいのですが、画面的にあまり使い勝手が良くない、ホームページで紹介しようと思うと、結構しっかりした説明を書かなければならない感じになってしまうので、Xなどで軽く紹介していくのもいいかと思います。また今後取り入れていきたいと思います。

**加藤委員** 前の話の関連で、「村のくらしと一大事」、この展示は非常に私自身も面白かったと思います。今までとちょっと違った展示方法、紹介の仕方、これはもうすごいなと思いました。あれ何時間見ても飽きないですよ。

それからInstagramの開設。これも今までこの会議の中で何回か指摘があって実現したような形だと思いますが、反響はいかがでしょうか。

**事務局** 先ほど木曾野委員からお話がありましたが、公開件数が多くないのもあると思いますが、それほど大きな反響があったというのはいないです。でも、少しずつフォロワーが増えたりといったことはあるのかなと思っています。

**加藤委員** 私も Facebook もインスタもやっているのですが、個人的に援助しようと思っています。行事のある時などに。

**友田委員長** では、他になければ議事を進めます。

(2) 令和8年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに令和8年度事業計画(案)について、事務局から説明をお願いいたします。

**事務局** 資料に基づき説明

**唐木委員** これからの方向ということで考えてほしいと思うのですけれども。美術館との連携について話したいんですけど、資料8ページの3番、千葉県博物館協会で、西原館長が会長をやっているという話ですけれども、この組織の中には博物館と美術館が入っていますよね。博物館協会は、さまざまな問題を解決して情報発信をするという組織かなと思いますが、私昨年、市原市の湖

畔美術館に行きました。企画展で小湊鐵道100周年記念というのをやっていたのですが、展示はやはり美術館らしい、光と影を使ってユニークな展示をしていました。内容は、特に美術館でなくても博物館でやってもいい内容でした。それからこちらでこれから実施する陶芸の作品展、これは逆に言ったら美術館でやってもおかしくない。美術館と博物館は位置づけは違うが、時には垣根を越えてやっても違和感はないと思います。実際に令和6年の1月に、千葉県博物館協会で「博物館・美術館における地域連携のあり方」という講演会がありましたね。ですので、例えば互いに連携して、いい所を相互に生かしていくというのは重要なことだと思います。そこで、この博物館と美術館の連携というのはどのように考えているのか、当博物館にしてはどういう考え方を持つてるのかをまずお聞きしたい。

2つ目としては、古い時代ばかりでなく、時には現代のものも取り上げてほしいと思います。

私は昨年、公民館の講座で椎の森工業団地を見学してきました。新しいですから、気になる工場がいっぱい立っていて、その中でサニークリーンという工場を見学させてもらいました。工業だけではなく、農業から商業施設など外からの財務的な流れのわかるシステムを一般のに知ってもらおうということは、重要なことだと私は思うんですね。これは普通に考えれば袖ヶ浦市の観光部署がやればいいという考えかも知れませんが、地域の過去の歴史から現在未来をつないでいくことはやはり博物館の1つの使命だと思いますので、活動の1つのアイテムとして、近代化を紹介するというのを考えて欲しいと思います。

## 事務局

最初の千葉県博物館協会についての考え方ですが、存在意義としてはまず研修の場で、さらに各館の繋がりを強化していこうということがあって、各地域から集まった方々が研修をそれぞれ分担して、千葉県の博物館美術館の専門性を高めていこうというところで活動しています。それで、県内を展示を持って回るということは全くやってないわけではないですが、あまり機会としては多くはないです。それで、美術館と博物館の間での資料のやり取りも全くないわけがではないと思うんですが、当館においては今まではなかつ

たと思いますが、この先、美術館との連携というのも考えてもいいかなという風には思います。この先展示も偏っていってしまいますと、入館者数の問題もありますし、袖ヶ浦美術展を生涯学習課が担当して行っていますが、それだけではなく、この博物館この施設を活用した美術展をやるならやった方がいいかなと思っています。ただ1つ問題がありまして、その問題点に気がついたのも、以前に袖ヶ浦の美術Ⅰとして中島敏明先生の絵画の展示を行ったのですが、その時の課題として、館内の温湿度管理の問題、空調機が美術館設定になってないので、温湿度管理がなかなか難しく、作品にヒビが入ったりといったこともありました。今回は陶磁器なのでそういうことはないと思うんですけど、絵画ですとそういう問題もありますし、美術のジャンルによっては全部が全部やれるような設定になってないというところもありますので、その点は慎重に考えていかなければならないと思います。

そのあたりも含めまして、私が5月で会長職の方は終わりになるんですけど、このまま袖博としては協会に残っていきますので、またさまざまな委員も回ってきますので、そういったところでこの連携についてもまた考えていければなと思っていますが、現時点で今すぐ何かをしようというのは持ち合わせていない状況にありますけど、唐木委員の考えもまたこの参考にさせていただきたいと思います。

それで、2点めですけれども、以前も袖ヶ浦の工業という展示を開催したことがあるのですけれども、そのような企画をするには専門的な知識が少し足りないところもありますので、企画する際にまた内部で話し合いながら、やるべき機会を探っていければと思います。

## 唐木委員

博物館から美術館に資料を貸すとか、美術館から博物館が借りるとか、そのようなやり取りは可能だと思います。美術館は美術館の運営の仕方があり、博物館は博物館の運営の仕方があると思いますので、お互いにその運営のいいところを協力してやる。博物館も美術館も常設展があつて、その時々企画展がある。そのパターンも多分一緒ですね。ただ、美術館は有料が多いですね。有料が多いので、一概にはできないと思いますけれど、お互いにいいと

ころをやっていけたらいいのかなということですよ。

#### 西原館長

資料のやり取りというのは、こちらの要望があれば借りることもありますし、貸出しすることもあります。それで、美術館とはやり方が違うとおっしゃいましたが、他の学芸員はまた違う考え方を持つてるかもしれませんが、私は美術館を見習いたいというところが、ボランティアの活動の仕方です。当館はボランティアを活用している方だと思いますが、美術館はボランティアの活用方がすごく上手くて、特に千葉市美術館は、ボランティアを養成して、事業で独立してうまく活用して、説明もしたり、解説員みたいなこともしているようです。そういうところを今後また見習っていければいいかなと思いますし、袖博のいいところもあると思います。ボランティアの活用も全然視点が違うとこで動いていますから、博物館も美術館も両方とも、ボランティアについてもうまくできればいいかなと思います。

#### 事務局

現代の展示のことで補足いたします。当館の場合、平成9年にリニューアルオープンした時に、現代産業展示室という部屋が常設でありました。今その部屋は半分閉めた形で、半分が山野貝塚の展示室になっています。そうなった経緯は色々あるのですが、やはり常設で現代産業を取り扱っていると、現代というのはいつも移り変わって更新されてしまうので、すぐに展示内容も古くなってしまっていて、そのうちにその部屋を活用するためにこうボードで塞いで、企画展等で活用したりしているうちに、展示自体が隠され忘れられてしまったというところがあります。でも、やはり地域の歴史を過去から現在まで見る上ではやはり現代も大事なことだと思いますので、また企画展等で積極的に取り入れていきたいと思います。来年度の企画展Ⅰでは、昭和なので現代とはちょっと違うのですが、昭和も大体展示で取り扱う時期は戦時中とかあの古い方が多いとは思いますが、今回の展示では高度経済成長期から新しい方の昭和の方を特に取り扱おうと思っておりますので、まだ現代までは届かないところではありますが、新しい時代の展示を楽しんでいただければと思っております。

加藤委員 先ほどの唐木委員のお話にも私も全く同調で、袖ヶ浦には美術館がないです。

唐木委員 小さい美術館もないですね。この近隣では市原の湖畔美術館が一番知られているのかなと思います。

加藤委員 それで、この博物館でも数年前に高校生かなにかの絵画展をやった経緯がありませんか。

事務局 中学生の美術展を開催していました。

加藤委員 博物館と美術館を合わせた形で、空き時間があればどんどん一般に開放して、例えば高校生だとか中学生だとか、場合によっては小学生だとか園児に開放して、とにかく年代関係なく博物館に足を運ばせて、次の世代にPRしていく、博物館に足を運ぼうという風な、そういった管理をしたらどうなのかなと思います。これは博物館に負担をかけるというわけではなくて、その開催をする人たちが全部やりますよと、ただ監視というか管理は一部博物館で見なければならぬ。ルール作りも必要だと思いますが、そういうやり方もあるのかなと思います。そうすれば、年がら年中博物館に足を運ぶという人の流れができてくるのかなという気がします。

唐木委員 茂原は、博物館と美術館が一緒だから、どちらかが何かやっていたら、例えば美術館で企画展をやっていたら博物館も一緒に見ることができます。茂原の場合はどちらかというとも美術館の比率が高いですね。博物館は一括りくらいのスペースだから、美術館の方が広い。それで、美術館で学生とか、一般の方の作品展とか、写真展とか、色々やっています。そのベースとなる茂原公園もあります。だからやりやすいというのはやりやすいですね。さっきも言いましたが、博物館と美術館のやり方はある意味違うかもしれない。それをお互いにいいところをやって開けていくことに意義があると思います。

加藤委員 一緒にやることで、その博物館の展示のいいところがぐっと出てくる可能

性もあるわけで、効果はあると思いますので、ご検討ください。

## 事務局

加藤委員のお話の中に、展示室についてギャラリー的な使い方をするということの提案があったかと思いますが、かつて平成10年代の終わりくらいですが、アクアラインなるほど館について、少し試みたことがあります。やはり規約のようなものを作って、使いたい人がいたら企画書をあげてもらって、基本的に準備は自分たちで全部やるというような形で、そのような決まりでやってみたのですけれど、実際あまりそういう依頼は来なかったです。その時は、アクアラインなるほど館に限ってのことでありましたし、自分の方も提案だけして異動してしまったので、その後の実際は分かりませんが、多分あまり活用されてなかったと思います。その時も博物館の負担を増やさないように、基本的に利用者にやってもらうという形で、決まりだけ作った感じでしたが、それでもやはり色々な安全面等を考えると全くお任せにはできないので難しかったのではないかと考えております。

同様に中学校の美術部作品展というのも、やはり自分の方で最初発案して始めたんですけれど、年に1回開催するという事で数年続けていたのですが、もともとは美術部の生徒たちの活躍の場が運動部に比べて少ないのが気になったのと、学校の方にも熱心な読書指導員がいて、最初は図書室での展示を図書委員が結構手伝ってくれて、その生徒たちが美術部が多かったというところから始めてみたものです。何年か続きましたが、博物館から見ると、展示するものは学校で用意して持ってきてくれて少しは楽だと思っておりますが、やはり会場を使ってもらうにあたっての労力は、やはり博物館企画展の1回分はありますので、だんだんと継続が難しくなったものと思います。また、この機会にいろいろと考えてみたいと思いますので、いろいろなアイデアがありましたらいただきたいと思っております。

## 加藤委員

いろいろな公民館でも展示をやっているのを見ますよね。幼稚園だとか、それから小学生、中学生。それで、このような展示でやっている時には必ず親が見に行くんですよ。それで子どもの作品を、子どもを連れて親が来る。そうすると年代が幅広くなって、その人数の倍以上になる。せっかくある施

設を有効に活用するために大枠で考える。ただ博物館だって言うのではなくて、1つの建物としてこれを有効に使おうという考え方にたっただけなのかなと思います。

**友田委員長** 子どものいろいろな展示をすると、親も来るし、おじいちゃんおばあちゃんもいっぱい来てくれますね。

**加藤委員** その中で、博物館の展示の内容にも興味を持つ。そういう効果があるとは思いますが。

**友田委員長** 次の議題に行きたいと思います。

議題（3）その他 「アクアラインなるほど館について」事務局から説明をお願いします。

**事務局** 資料に基づき説明

**唐木委員** 提案ですけれども、収蔵スペースについて、以前、ものがいっぱいあって入れる所がないという話が会議でもあったと思うのですが、その時に、そこを見せる展示スペースにしたらどうですかという話をしたと思うのですが、せっかくそこにあるのでしたら、例えばこういう形でしまっていますけど、見たい人がいたら見せたらどうなのかというのが1つ。それから、休憩として使うとありますが、ここは、さっき月の予定表が貼ってあると話しましたが、その休憩スペースで、月に1回、2回、会の人たちが何かやって、公園に来た人たちに見ていきませんかというそんな接点のスペースですね。会の人たちと公園来場者の接点のスペースとして、月1回から2回くらい使ったらどうなのか、単純に休憩だけではもったいない。今日はこれこれやっていますという幟など立てて、寄っていきませんかという形でやらせよう、そういった会の人たちとの接点に使っていただきたい。

**事務局** まず見せる収納についてですけれども、今回検討するにあたって、検討段

階ではそういったことも考えました。ただ、常駐する職員がそこにいないということが、やはりネックになっておりまして、それは難しいかなというところに至っております。それから休憩スペースで何かやったらいいというお話ですが、体験できるようなことというお話がありましたが、それはとてもいい案だと思いますので、今後参考にさせていただいて、できたらいいかなと考えます。

**西原館長** 月1回というのは難しいかもしれないですけど、例えば友の会の方と意見を交換しながら、できることの提案をいただいた時に、使っていただくということは多分可能と思います。

**唐木委員** 収蔵スペースも職員がいないという話ですけど、別にいなくても、そこにこういう風な形で収蔵してますというのを立て看板でもかけてもらって、その看板とその現状を見てもらうだけでもいいのではないかな。収蔵スペースにはこうあります、こういう形で収蔵してますという看板があれば、それも1つの見せる収蔵なのかなと思います。それで、月1回程度のイベントをあくまでも無理ではない範囲でやっていただければと思います。

**近藤委員** アクアラインなるほど館はやはり市で作ったものでなくて、アクアラインの施設管理事務所とか前田建設が、ここまで作ったのですか。ハードウェアも。

**西原館長** ハード面、施設もそうですし、展示物パネルは全部NEXCOで、建設業者であった前田建設が準備段階で作ったものです。それを譲渡していただいた。

**近藤委員** 今回譲渡したのを自由に使っていいという形で承諾を得て、既存のハード面はいただいたということですね。アクアラインって、すごい大工事であって、なおかつ東京湾を横断する大工事だったんですけど、ものすごい調査研究されて作られているので、先日テレビで、新幹線で前田建設が一部関わっていて、あと別の会社も入っていましたけれども、トンネル屋さんで、すご

い技術持っていると思うんですけど、すごいデータも持っているので、置いてあったものはハード面で模型とかそういうものだけでしょうけれども、今でもまだ関係があるのでしたら、ハード面もいただくのも大変なんですけど、ソフトの面で映像やデータ等を問題がないようだったらいただければ、そういう話もされた方がいいなと思います。随分前なので、その映像自体も今とは違うでしょうけれども、いただけるものはもらっておくと、地質学的にも非常に興味があるところで、東京湾は大昔干上がっていますよね、氷河期時代に。海底の柔らかい土壌を掘るために冷凍させながら掘ったという話を聞いたことあるのですけれど、そういうところで多分データは全部蓄積されているので、いわゆる地質学的なデータとかものすごく多分あるはずなんですよ。そういうのもいただけるとゆくゆくは氷河期とかの展示等でも十分使えるデータをお持ちかもしれませんので、今でも接点があるのでしたらそういう交渉もしていただければ、写真画像データも同じですけど、ハードではもう色が変わっていますけれども、ソフトで電子データであればいつでも可能ですので、そういうのをもらっておくといいと思います。

すごい難工事だったと思いますので、先ほども話がありました近現代産業の資料についてと同じような資料だと思いますので、できればそういうものを市で持つておくことが大事だと思います。一企業でも持っている、一企業は収益関係ないとどんどん切ってってどんどん捨てて行ってしまうので、市原もすごいコンビナートがありましたけれど、もう中身が一切、昔と全然違ったものを作っていて、昔の資料はほとんどない。いらなくなると、業者は捨てている。一部ハードで寄贈してもらったものが一度展示してありましたけど、一切市原は残ってないです。その時の最高水準の品物が一切残ってないので、そういうものはもしあれば、すごいと思うのですけれど、今でも接触があるのであれば、この機にそういうものをいただけるように交渉していただければ、ハード面でいただくのはもらってソフト面でいただけるものがあれば頂いた方が、そこで画像も活かせるし、ゆくゆくは市の有効な資料になるのかなと私は思うのですが、いかがでしょうか。

今井委員           あの水を差すようでなんですけど、博物館のものということになると、あり

がたいことですが、責任が出てくるわけですね。安全とかあるいは空気とか。

西原館長 一応、現時点ではもう博物館のものになっています。

今井委員 それでそういう問題は今のところないですか。

西原館長 ないです。もう袖ヶ浦市で使ってくださいと言われてるので、権利はこちらにある。許可を取っているのは、建物については、展示施設として使ってくださいということでいただいているわけです。なので、違う使い方をするようになってしまっても、もらったものですからこちらの権利で、注意点はありますが法的には問題ないのですが、いただいた先に、許可は念のために共有するというだけです。あの展示物は一点物で、世界に1つしかない模型なので捨てることもありませんし、貴重な展示物として本館の方に移設して、より多くの方に見ていただきたいと考えています。

今井委員 公園利用者が入ってきて、快適に過ごせるというわけですね。

西原館長 本館よりは入りやすい休憩スペースになるのかなと思います。本館だとどうしてもちょっと敷居が高いから、普段歩いてるけどなかなか入りづらいという人には、まだ向こうの方が入りやすいのではと思います。

今井委員 空調があって、トイレはないんですね。

西原館長 トイレ、水道もない。本当に休むだけ。どれくらいの利用があるかは、ちょっとまだ分からないので、カウンターなどをうまく使って、中に入る人数を調べてないといけないかなという風には思います。現時点ではそのような方向で行こうと思います。

今井委員 物が入っているところには、今のところ施錠がしてあるのですか。

西原館長 収蔵スペースとの仕切りは今はカーテンしかないです。

今井委員 では、入って行けちゃうわけですか。

西原館長 そうならないように、板でふさぎます。

今井委員 不特定多数の人が入ってくると、やはり心配ですね。

西原館長 そういうことで定期的に見守らなければならないです。本館との連絡はインターホンがあります。

友田委員長 名称はどうなりますか。

西原館長 名称は、現時点では閉鎖はしてないので、そのままにしようかと思っています。いずれにしても、7月ぐらい、展示物は5月ぐらいに移したいと思います。

それから、近藤委員からご意見があった映像等の件ですけれど、できるかどうかは分かりませんが、全く接点がないわけではないので、著作権とか権利の問題もあるでしょうから、可能なところでいただけるのであれば、その考え方についてはまたお伺いしていきたいと思います。

友田委員長 よろしいでしょうか。では、以上で議事を終了いたします。ご協力ありがとうございました。進行を事務局にお返します。

事務局 議長ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、令和7年度第3回袖ヶ浦市郷土博物館協議会を閉会といたします。慎重審議ありがとうございました。

閉会

# 令和7年度第3回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

## 会議次第

日 時 令和8年3月10日(火)  
午後2時から午後3時30分  
場 所 郷土博物館 研修室

### 1 開 会

### 2 議 題

- (1) 令和7年度郷土博物館事業の成果と課題について
- (2) 令和8年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに  
令和8年度事業計画(案)について
- (3) その他

### 3 閉 会

## 第 2 2 期袖ヶ浦市郷土博物館協議会委員名簿

| 氏 名                | 選 出 区 分             | 備 考        |
|--------------------|---------------------|------------|
| まえざわ ゆきお<br>前沢 幸雄  | 学校教育<br>奈良輪小校長      | 再任<br>2 期目 |
| やまだ さとる<br>山田 悟    | 社会教育<br>文化協会        | 新任         |
| ともだ けんじ<br>友田 賢司   | 社会教育<br>子ども会育成会     | 再任<br>3 期目 |
| いまい けいこ<br>今井 恵子   | 社会教育<br>郷土博物館友の会    | 再任<br>2 期目 |
| かとう まさと<br>加藤 正人   | 社会教育<br>市民学芸員       | 再任<br>2 期目 |
| きそ の まさき<br>木曾野 真紀 | 家庭教育<br>保育ボランティアひよこ | 再任<br>2 期目 |
| じびき ひさゆき<br>地引 尚幸  | 学識経験者               | 再任<br>2 期目 |
| こんどう さとし<br>近藤 敏   | 学識経験者               | 再任<br>2 期目 |
| からき よしあき<br>唐木 義昭  | 学識経験者               | 再任<br>4 期目 |
| たかはし ひさし<br>高橋 久   | 学識経験者<br>公募委員       | 新任         |

任 期 令和 7 年 2 月 1 日から令和 9 年 1 月 3 1 日まで

議題（1）令和7年度郷土博物館事業の成果と課題について

令和7年度袖ヶ浦市郷土博物館重点施策

2月25日現在

(1)地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

|   | 項目                   | 事業目標値 | 実績                   | 備考 |
|---|----------------------|-------|----------------------|----|
| ① 調査研究  | 旧石器時代に関する調査          |       | 調査研究中                |    |
|   | 袖ヶ浦市の弥生時代・古墳時代に関する調査 |       | そではく考古学講座で活用         |    |
|   | 中世荘園に関する調査           |       | 調査研究中                |    |
|   | 古代の植物利用に関する調査        |       | 調査研究中                |    |
|   | 袖ヶ浦市内の生物に関する調査       |       | 令和7年度企画展Ⅱで活用         |    |
|   | 館蔵資料の調査研究            |       | 令和7年度企画展Ⅰ・Ⅱ、ロビー展示で活用 |    |
|   | 地域文化財報告書作成に伴う調査研究    |       | 地域文化財報告書刊行           |    |
| <p>■成果<br/>古墳時代に関する調査の成果を講座（そではく考古学講座）に活用することができた。<br/>資料整理の過程で、館蔵資料の調査研究を進めることができ、企画展やロビー展示に活用することができた。<br/>地域文化財報告書作成の過程で、地域に所在する石造物の分布状況が明らかになり、特に庚申塔や馬乗り馬頭観音について調査研究を進めることができた。</p> <p>■課題<br/>学芸員が業務の中で調査に専念することができる時間や調査成果を発表する機会が限られている。</p> |                      |       |                      |    |

|  |                      |                   |               |   |
|--|----------------------|-------------------|---------------|---|
| ② 地域資料管理活用事業の展開  | 地域資料の調査収集及び活用        |                   | 地域資料購入0件、活用7件 | 購入対象地域資料は調査中。活用は企画展Ⅰ・企画展Ⅱ・実習展・ロビー展示・常設展示・考古学講座・企画展Ⅰ関連事業 |
|  | 収蔵保管資料の適正な管理         |                   | 通年実施          | 温湿度管理。  |
|  | 収蔵資料の修復委託（奈良輪漁業組合資料） |                   | 1件（資料数31点）    |   |
|  | ホームページによる情報発信        | 情報メディアによる資料公開 年3回 | 1回、随時HP更新     |   |
|  | 古文書等表題データベース作成       |                   | 2,119件        | 再整理、目録修正件数  |
|  | 埋蔵文化財写真デジタル化         |                   |               |   |
|  | 『袖ヶ浦市史研究』第23号募集      |                   | 応募者5名         |   |
|  | 地域文化財報告書作成           |                   | 地域文化財報告書刊行    |   |
| <p>■成果<br/>・令和7年度は、10件の寄贈を受けた。館蔵資料修復も委託により計画的に進んでいる。古文書等表題データベース作成は、書状や一括で扱われていた掛軸等の再整理により、詳細な表題をつけることでより活用しやすいデータベースとなった。</p> <p>■課題等<br/>・市内に所在する資料の散逸について、常に情報収集、調査が必要である。特に、インターネットで販売される地域資料も多く、今後もそのような場所で売買されている資料については、購入、収集する必要がある。<br/>・検索できる収蔵資料データベースの公開について、現在準備中である。</p> |                      |                   |               |   |

(2)市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上に貢献します。

|               | 項目                                   | 事業目標値                            | 実績   | 備考                             |
|---------------|--------------------------------------|----------------------------------|--|--------------------------------|
| ① 展示更新推進事業の展開 |                                      | 本館常設展入館者数<br>23,000人以上           | 20,122人  | R6年度は24,936人                   |
|               | 企画展3回                                |                                  |  |                                |
|               | i 企画展Ⅰ「村のくらしと一大事」【令和7年度重点取組】         | 企画展入館者数 4,500人以上/回               | 6,566人   | R6年度企画展Ⅰ「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」は8,471人 |
|               | ii 企画展Ⅱ「鳥をめぐるものがたり」【令和7年度重点取組】       | 企画展入館者数 4,500人以上/回               | 4,784人   | R6年度企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典」は4,630人      |
|               | iii 企画展Ⅲ「袖ヶ浦の美術Ⅲ 飯塚勝康回顧展」【令和7年度重点取組】 |                                  |  | 3月20日から開催                      |
|               |                                      | 特別展・企画展及び常設展示への収蔵資料活用 年3件        | 4件   | 企画展Ⅰ・企画展Ⅱ・ロビー展示・常設展示           |
|               | 企画展開催時の関連事業実施 企画展1回につき2回             | 企画展Ⅰ 5回<br>企画展Ⅱ 5回<br>企画展Ⅲ 4回を予定 | 企画展Ⅰ「村のくらしと一大事」講演会・バスツアー・展示解説会3回<br>企画展Ⅱ「鳥をめぐるものがたり」講演会・展示解説会3回・野鳥観察会<br>企画展Ⅲ「飯塚勝康回顧展」ギャラリートーク2回・ワークショップ・スライドレクチャー |                                |

|   |   |                    |                     |  |
|---|---|--------------------|---------------------|--|
| ① 展示更新推進事業の展開   | 常設展示の部分更新（考古、民俗）  |                    | 民俗・出羽三山信仰コーナーに資料追加  | 令和6年度企画展Ⅰの成果活用   |
|   | 旧進藤家住宅での各種展示  |                    | 5回                  | 盆栽展2回・ひな人形展示1回・五月人形展示1回・十五夜展示1回  |
|   | ロビー展示・ミニ企画展等の開催   |                    | 7回                  | ・実習展「永吉台遺跡」<br>・ロビー展示「戦後80年、あの時、あの頃・・・そして今」<br>・凧の会「新春大凧展示」<br>・市民学芸員季節遊びの会 季節のミニ展示4回  |
|   | 万葉植物園の活用（市民学芸員協働実施）   |                    | 1回                  | 秋の万葉こどもまつり2025（悪天候のため館内で実施）  |
|   | 指定文化財の活用  |                    |                     | 実習展（永吉台遺跡出土資料）   |
|   | <p><b>■成果</b><br/> ・企画展・特別展からロビー展示まで、多岐にわたる内容で展示を行い、市民への資料公開、情報提供に努めることができた。<br/> ・2回の企画展について、企画展Ⅰは、来館者数は前年同時期を下回っているが、一般にはあまりなじみのない古文書を前面に押し出したことで専門研究者から高い評価を得ることができ、地域の史料を詳細な解説付きで取り扱うことで、市民の関心も高いものとなった。企画展Ⅱは鳥をテーマに、生物としての側面だけでなく、考古学・歴史学からのアプローチも試みた内容で、幅広い層の来館者を得た。<br/> ・市民学芸員自主企画事業「秋の万葉こどもまつり」は悪天候のため館内での実施となったが、どんぐりや松ぼっくりなど自然のものを使った工作等で万葉植物園についてもアピールできた。</p> <p><b>■課題</b><br/> ・本館常設展入館者数は、2月17日現在19,322人で、現状では事業目標の23,000人に満たないものとなっている。企画展やイベントがない時も足を向けてもらえるように、ミニ展示のこまめな開催や常設展の展示替えなど、さらなる工夫が必要である。</p> |                    |                     |  |
| ② 教育普及事業の推進   | そではく考古学講座の開催  |                    | 5回                  | テーマ「古墳時代研究最前線」   |
|   | 博物館講座「袖ヶ浦学」の開催  |                    | 5回                  | 第177回「房総と浮世絵～師宣と広重～」、第178回「君津地方に墜落したB-29について」、第179回「近世におけるイボキサゴの利用について」、第180回「そではく冬のバードウォッチング2026」、第181回「中世の陶磁器について～君津地域の遺跡出土品を中心として～」 |
|   | 友の会、市民学芸員、上総掘り技術伝承研究会等諸団体との協働による事業の開催   |                    | 10回                 | ミュージアムフェスティバル、自然と歴史の散策会、盆栽展、凧あげ会、第177回袖ヶ浦学、秋の万葉こどもまつり2025、ひな人形展示、五月人形展示、七夕展示、十五夜展示   |
|   | 夏の子ども向けイベントの開催  |                    | 1回                  | 夏休みジュニア学芸員体験「土器にのこされた痕跡を探そう！」  |
|   | 市民学芸員イベントの開催  |                    | 1回                  | 秋の万葉こどもまつり2025   |
|   | ミュージアムフェスティバルの開催  |                    | 1回（2日間）             | 6月7日（土）・8日（日）  |
| <p><b>■成果</b><br/> ・ミュージアムフェスティバルでは、2日間での2,213人が入場し、袖ヶ浦学は2月7日までの4回でのべ123人が参加するなど、普段博物館へ来館しない方へのPRや、博物館へ多様で深い学びを求める利用者のニーズに応えることができた。<br/> ・博物館と友の会の協働事業は、4件実施した。</p> <p><b>■課題</b><br/> オンライン講座などについては、環境整備や導入についてさらなる検討をし、実施に向けて計画する必要がある。</p> |   |                    |                     |  |
| ③ 博学連携事業の拡充   | 校外学習支援（市内・市外）   | 年15件               | 小学校13件742人<br>中学校1件 | 市内小学校3・6年、南子安小3年<br>根形中（山野貝塚）  |
|   | 資料の貸出   | 年6件                | 3件23点               | 蔵波小、根形中2件  |
|   | 学習相談  |                    | 5件                  | 蔵波小5年生、袖ヶ浦高校、木更津高校、上総掘りについて2件（中学・高校各1）   |
|   | 教員対象研修の実施   |                    | 2回                  | 袖ヶ浦市退職校長会<br>習志野市谷津小学校   |
|   | 学校向けワークシートの作成・更新・活用   |                    |                     | 小学校3年・6年の校外学習で使用。  |
|   | アウトリーチ活動（出前講座・出前授業・現場出張）  | アウトリーチ 実施回数<br>年3件 | 6件699人              | 蔵波小3・6年、昭和小6年、奈良輪小6年生、袖ヶ浦高校、根形小3年（雨天のため変更）   |
|   | 山野貝塚体験型プログラム活用  |                    | 1件                  | 根形中学校  |
|   | メールマガジン「そではく通信」の発行  |                    | 14回                 | 総合教育センター、市内小中学校、小中学校図書室へ送信   |
|   | 学校図書館との連携促進（物流システムの活用等）   |                    | 2件                  | 学校図書館への資料貸出（蔵波小、根形中）   |

|                    |  |                              |                                      |   |                       |
|--------------------|--|------------------------------|--------------------------------------|---|-----------------------|
| ③ 博学連携事業の拡充        | <p>■成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校3年生・6年生の体験学習について、事前打ち合わせを十分に行うことで各学校の状況も考慮し、要望に合わせたメニューで実践することができた。</li> <li>・学校図書館司書と情報共有をはかり、資料貸出や図書物流を活用した。</li> <li>・山野貝塚学習プログラムについて地元の根形中学校で活用があり、好評のため来年度も実施の依頼が来た。</li> <li>・メールマガジン「そではく通信」の発行により、博物館のリアルタイムの情報を直接学校に届けることができた。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年アウトリーチが増加しており、利用する学校は大規模校が多いためクラスも児童数も多く、これまでの人員・プログラムでは実施が難しくなっている。アウトリーチについてはさらなるプログラムの精査やスタッフの確保、学校への協力要請等、検討すべき課題が多い。</li> <li>・資料の貸出は学校図書室を中心にリクエストがあったものの目標値の半分程度にとどまったため、さらなるPRが必要である。</li> </ul> |                              |                                      |   |                       |
|                    | ④ みんなにやさしい事業の推進  | 高齢者施設との連携（博福連携：博物館と福祉施設等の連携） |                                      | 45件 438人  |                       |
|                    | 多言語対応の推進   |                              | 英語版ガイドブックの素案を作成し、試験的に運用。             | 他館の事例を調査し検討。  |                       |
|                    | <p>■成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者施設の利用者が定期的に来館し、博物館資料に親しむことで、高齢者の生活に刺激を与えることができた。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者施設からの利用について、満足度がわからないため、アンケート等を実施する必要がある。</li> <li>・多言語対応は、人員不足により積極的な取り組みができていないため、市民学芸員等と連携してできる方法を検討する必要がある。英語版ガイドブックが活用に至っていないので、精査し活用できるようにする必要がある。</li> </ul>  |                              |                                      |   |                       |
| ⑤ ボランティアの養成と支援     | 市民学芸員主催イベントへの支援  | 市民学芸員自主企画事業の実施 年3回           | 6回                                   | 五月人形展示、七夕展示、十五夜展示、秋の万葉こどもまつり（市民学芸員14名参加）、お飾りづくり、ひな人形展示                                |                       |
|                    | 市民学芸員フォローアップ研修の実施と市民学芸員の生涯学習サポート   | 市民学芸員研修の実施 年2回               | 1回実施済、2月に2回目実施予定                     | 第1回移動研修「国立科学博物館筑波実験植物園・国土地理院地図と測量の科学館の見学」。第2回講座「古文書からわかる江戸時代のあれこれー旭と袖ヶ浦をつなぐ怪事件を読み解くー」 |                       |
|                    | 市民学芸員養成講座の実施と新規市民学芸員の育成  | 講座年8回                        | 11回                                  |   |                       |
|                    | 〃  | 新規市民学芸員2人                    | 5名加入                                 |   |                       |
|                    | 地域史掘り起こし研究への支援   |                              |                                      | 市民学芸員郷土を学ぶ会活動支援及び助言   |                       |
|                    | グループ活動の支援  |                              |                                      | 3グループ活動支援   | 万葉グループ、郷土を学ぶ会、季節あそびの会 |
|                    | 館蔵資料整理   |                              |                                      | 5名参加予定  | 寄贈衣料品の整理<br>3月12日実施予定 |
|                    | 企画展ワーキンググループ活動への支援   |                              |                                      |   | 館蔵資料調査、情報共有           |
|                    | <p>■成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き市民学芸員養成講座を開催した。11回の講座を終了し今年度は5名の新規市民学芸員が加入した。参加者のさまざまなニーズと自主性に応えるため、定例会でのミニ講座や館蔵資料整理の機会も創設した。養成講座での影響を受けて個人制作からスタートした寺社案内マップ作りも4月から新たに会として発足予定である。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民学芸員養成講座により登録者数が増加し、新たな人材が活躍し始めているがグループ活動のみ参加する者もあり、イベントや体験学習など市民学芸員全体での活動については実際に活動に参加する者が固定化している傾向にある。参加しない登録者について意向調査や興味関心を持てる講座の開催など、さらに工夫する必要がある。</li> </ul>   |                              |                                      |   |                       |
| ⑥ 上総掘り技術伝承研究会活動の支援 | 活動場所の確保  |                              | 「水のふるさと」における活動支援                     | 活動は3か月に1回<br>R7の活動内容は竹採取等   |                       |
|                    | 資材調達   |                              | 消耗品等購入                               |   |                       |
|                    | 活動PR   |                              | YouTube公開                            |   |                       |
|                    | <p>■成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・YouTube動画公開により、上総掘りの技術を広く周知することができた。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の活動が行われていない。</li> <li>・「水のふるさと」の足場が破損し、解体した状態なので、現在体験事業等ができない。</li> </ul>   |                              |                                      |   |                       |
| ⑦ 郷土博物館友の会活動の支援    | 『友の会だより57・58号』の発行  |                              | 『友の会だより』57・58号の発行                    |   |                       |
|                    | 友の会各グループ活動（凧の会・仏像を学ぶ会・太古の会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会、植物画葉月の会）への支援   |                              | グループ活動への支援                           | 会員数58名  |                       |
|                    | 友の会グループ主催イベント（新春凧揚げ会、盆栽展示など）への支援   |                              | 新春凧揚げ会、盆栽展（3回）、古文書いろはの会飾り紐等体験会開催への支援 |   |                       |
| ⑧ 物か館ら幼体の児験博期      | 親子向け事業の開催  |                              |                                      | 秋の万葉こどもまつりの開催   |                       |

| (3)市民の生涯学習拠点としての安全・安心な施設を提供します。   |  |       |  |   |
|---|--|-------|--|---|
|   | 項目   | 事業目標値 | 実績   | 備考  |
| 施設管理事業  | 安全点検の実施(月1回)   |       | 月1回施設安全点検実施  |   |
|   | 避難訓練、消火訓練及び救急訓練の実施   |       | 本館火災避難訓練実施、旧進藤家住宅で避難訓練・消火訓練実施  |   |
|   | I P M (日常的に収蔵環境を管理し、薬剤だけに頼らず文化財等をカビや虫等の有害生物から防除する方法:総合的病害生物管理)の理念に基づいた展示、収蔵環境管理の実践 |       | 毎日   |   |
|   | 日常的な施設の維持管理及び修繕による安全確保   |       | 万葉植物園木製平橋修繕<br>本館浄化槽放流槽フロートスイッチ交換修繕<br>収蔵庫2空調加湿系統純水器交換修繕<br>研修室照明器具交換修繕ほか  |   |
| <b>■成果</b><br>・月1回の安全点検と年2回の避難訓練により、施設と利用者の安全を守る基盤を保持することができた。  |  |       |  |   |
| <b>■課題</b><br>・施設の老朽化による不具合について、修繕だけで対応するのは限界がある。   |  |       |  |   |
| (4)博物館の社会的役割を意識し、地域に貢献します。  |  |       |  |   |
|   | 項目   | 事業目標値 | 実績   | 備考  |
| ① 周辺施設との連携  | 公民館、図書館等社会教育機関でのアウトリーチ活動(出前講座・展示・現場出張サービス)   |       | 9件   | 館内での対応含む(公民館講座による博物館の見学対応等)<br>公民館以外:総合教育センター調べ学習相談会  |
|   | 袖ヶ浦公園・根形交流センターとの連携を強化し、事業の相乗効果をはかる。  |       | ミュージアムフェスティバルの菖蒲祭りとの同日開催<br>袖ヶ浦公園を利用した観察会等 2件<br>根形交流センター講座への講師派遣等 2件<br>根形交流センターだよりへの寄稿 4回                            | ジュニア学芸員体験講座、野鳥観察会   |
| ② 郷土博物館実習生の受け入れ   | 学芸員資格取得を目指す学生に対して、博物館法施行規則第1条に定める「博物館実習」の機会を提供し、後進の育成を行う。                          |       | 4名<br>10日間<br>ロビー展示開催  |   |
| ③ 各博物館協会協議会等への参加  | 日本博物館協会、関東博物館協会、千葉県博物館協会、君津地方公立博物館協議会へ参加し、各種団体及び機関との事業連携を図ります。                     |       | 君津地方公立博物館協議会研修会参加 3名(2回)<br>千葉県博物館協会研修会参加 2名(2回)<br>全国博物館大会参加 1名<br>関東博物館協会機関紙への執筆 1名<br>関東博物館協会役員 1名<br>千葉県博物館協会役員 1名 |   |
|   | 千葉県史料保存活用連絡協議会   |       | 研修会参加2名、施設見学会参加1名  |   |
| ④ 博物館周辺の景観整備  | 緑地管理   |       | シルバーによる整備実施  |   |
|   | 万葉植物園等屋外附属施設管理   |       | 会計年度任用職員による整備実施  |   |
|   | 公園管理組合との共通認識をもった管理   |       | 公園管理組合への情報提供・意見交換  |   |
| ⑤ 動向把握  | 文化財保護法や文化芸術基本法、改正博物館法に基づく国県等の動向並びにこれからの博物館制度の動きを把握する。                              |       | 研修会参加 2件   | 全国博物館長会議、全国博物館大会  |
| ⑥ 庁内関係各課との連携  | 生涯学習課と連携し、文化財情報の共有や協働事業の実施により相乗効果を高める。   |       | 史跡山野貝塚整備活用委員会への参加<br>埋蔵文化財・指定文化財情報の共有  |   |
|   | 公民館・図書館との連携。   |       | 講座への講師派遣等 8件<br>図書館展示への協力 1件   | 長浦交流センターながうら遊学塾、根形公民館地域再発見講座(2回)、平岡交流センターシニアセミナー、昭和交流センター高齢者学級、富来田ふるさと講座、西清川公民館歴史講座、岩根公民館家庭教育学級 |
| <b>■成果</b><br>・普段、博物館に来館しない公園や公民館・図書館の利用者に、博物館の活動を周知することができた。<br>・生涯学習課との連携によって、より最新の文化財情報を事業に反映し、専門性の高い情報を共有することができた。<br>・各種団体への参加や連携により、博物館を取り巻く最前線の情報を入手し、事業に活用することができた。 |  |       |  |   |
| <b>■課題</b><br>・公民館・図書館との連携については、さらなる双方向性や継続性が必要である。   |  |       |  |   |

## 議題（２） 令和８年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに 令和８年度事業計画(案)について

### 令和８年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)

※アンダーラインは令和７年度からの変更箇所

#### 1. 経営方針

郷土博物館では、第三期教育ビジョン後期計画の基本目標である「未来を創る 心豊かでいきいきとした人づくり」の実現に向け、生涯学習活動の機会や場を提供し、地域の人づくりや絆づくりに貢献するとともに、郷土の歴史と文化を学び後世に伝える活動を推進します。

そのため、郷土博物館は、「袖ヶ浦市郷土博物館の使命」に示す４つの項目を重点施策とし、国史跡・山野貝塚をはじめ、市内の文化遺産（地域資料）についての調査研究活動及び収集・保管・展示を行い、市の歴史を探ります。

また、市民学芸員・友の会等との協働により教育普及事業・博学連携事業のさらなる充実を図り、市民や学校への学習支援を行い、市民活動の場、知的交流の場としての利用を促進するとともに、その担い手である市民学芸員・友の会員をはじめとした人材の育成にも力を入れて参ります。

引き続き、多くの来館者が安心・安全に利用していただけるように、施設を適切に管理します。

#### 2. 重点施策

##### (1)地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

博物館活動の原点である地域における調査研究と地域資料の収集・保存・管理に努め、市民の共有財産として次世代に継承します。特に、上総掘りの技術については、技術の伝承と保存に努めます。

また、地域資料の調査研究の成果を各事業の開催により市民と共有します。

さらに、ホームページ・新聞等を活用して博物館活動を広くPRし博物館利用の促進を図ります。

##### ① 調査研究

- ・旧石器時代に関する調査
- ・袖ヶ浦市の弥生時代・古墳時代に関する調査
- ・中世荘園に関する調査
- ・古代の植物利用に関する調査
- ・館蔵資料の調査研究 等

##### ②地域資料管理活用事業の展開

- ・地域資料の調査収集及び活用
- ・収蔵保管資料の適正な管理
- ・収蔵資料の修復委託（奈良輪漁業組合資料）
- ・情報メディアによる情報発信

（事業の目標値：情報媒体による資料公開 年7回）

- ・古文書等表題データベース作成
- ・埋蔵文化財写真デジタル化
- ・『袖ヶ浦市史研究』第23号刊行

## (2)市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上に貢献します。

市民の学習や知的交流の場として、市民の多様なニーズを考慮しながら、企画展や各種イベントを計画的に開催します。また、市民が自らの意志で参画できる事業を企画し、地域の学習力や地域文化の向上に貢献します。

博学連携事業は小学校の学習指導要領に基づき、更なる充実を図るため、身近な学びの場として子どもたちが日常的に活用できるように博物館活動の周知に努めます。

さらに、博物館活動のパートナーである市民学芸員や友の会の活動を支援するとともに、新たな人材の発掘と育成を図り、市民と共に歩む博物館活動の充実を努めます。また、市内外の各種団体との連携により地域の魅力発信に努め、地域文化の向上に貢献します。

### ① 展示更新推進事業の展開 (事業の目標値：本館常設展入館者数 25,000人以上)

- ・企画展2回 (事業の目標値：企画展入館者数 6,000人以上/回)

#### **令和8年度重点取組**

i 企画展Ⅰ「昭和100年記念展示 みんなの昭和、わが家の100年」

ii 企画展Ⅱ「星の導き、天の声」

(事業の目標値：展示への収蔵資料活用 年5件)

- ・常設展示の部分更新
- ・旧進藤家住宅での各種事業 (事業の目標値：年6回)
- ・ロビー展示・ミニ企画展等の開催
- ・万葉植物園での各種事業 (事業の目標値：第3回)
- ・指定文化財の活用

### ② 教育普及事業の推進 (事業の目標値：諸団体との協働事業の実施回数 年5回)

- ・考古学専門講座の開催
- ・博物館講座「袖ヶ浦学」の開催
- ・友の会、市民学芸員、上総掘り技術伝承研究会等諸団体との協働による事業の開催
- ・上総掘りによる井戸掘削事業の実施 **令和8年度重点取組**

- ・夏の子ども向けイベントの開催

- ・市民学芸員イベントの開催

### ③ 博学連携事業の拡充

- ・校外学習支援(市内・市外) (事業の目標値 年15件)
  - ・資料の貸出 (事業の目標値 年6件)
  - ・学習相談
  - ・教員対象研修の実施
  - ・学校向けワークシートの作成・更新・活用
  - ・アウトリーチ活動(出前講座・出前授業・現場出張)
- (事業の目標値：アウトリーチ 実施回数 年3件)

- ・山野貝塚体験型プログラムの活用

- ・学校図書館との連携促進（物流システムの活用）
- ④ **みんなにやさしい事業の推進**
  - ・高齢者施設との連携（博福連携：博物館と福祉施設等の連携）
  - ・多言語対応の推進
- ⑤ **ボランティアの養成と支援**
  - ・市民学芸員主催イベント(万葉こどもまつりなど)への支援  
(事業の目標値：市民学芸員自主企画事業の実施 年5回以上)
  - ・市民学芸員フォローアップ研修の実施と市民学芸員の生涯学習サポート  
(事業の目標値：市民学芸員研修の実施 年2回以上)
  - ・市民学芸員養成講座の実施と新規市民学芸員の育成  
(事業の目標値：新規市民学芸員2人以上)
  - ・地域史掘り起こし研究への支援
  - ・~~記録誌作成~~
  - ・グループ活動の支援
  - ・館蔵資料整理
  - ・協働による企画展の開催のための調査等
- ⑥ **上総掘り技術伝承研究会活動の支援**
  - ・井戸掘削事業への支援 **令和8年度重点取組**
  - ・活動場所の確保
  - ・資材調達
  - ・活動PR
- ⑦ **郷土博物館友の会活動の支援**
  - ・『友の会だより 59・60号』の発行
  - ・友の会各グループ活動(凧の会・仏像を学ぶ会・太古の会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会、植物画葉月の会)への支援
  - ・友の会グループ主催イベント(新春凧揚げ会、盆栽展示など)への支援

### (3)市民の生涯学習拠点としての安全・安心な施設を提供します。

市民の快適な学習環境を整えるために管理施設について定期的に点検を実施し、状況を把握します。また、不具合が生じた箇所については、修繕等を行い、施設を維持管理し、安全な学習環境を整えます。

#### 施設管理事業

- ・安全点検の実施(月1回)
- ・避難訓練、消火訓練及び救急訓練の実施
- ・IPM（日常的に収蔵環境を管理し、薬剤だけに頼らず文化財等をカビや虫等の有害生物から防除する方法：総合的病害生物管理）の理念に基づいた展示、収蔵環境管理の実践
- ・日常的な施設の維持管理及び修繕による安全確保

#### (4) 博物館の社会的役割を意識し、地域に貢献します。

学校・他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流・連携をより強化するとともに、袖ヶ浦公園・周辺の遺跡・歴史遺産を活用し、博物館と市民が融合した魅力的な博物館活動を継続します。

##### ① 周辺施設との連携

- ・公民館、図書館等社会教育機関でのアウトリーチ活動（出前講座・展示・現場出張サービス）
- ・袖ヶ浦公園・根形公民館等との連携を強化し、事業の相乗効果をはかる。

##### ② 郷土博物館実習生の受入

- ・学芸資格取得を目指す学生に対して、博物館法施行規則第1条に定める「博物館実習」の機会を提供し、後進の育成を行う。

##### ③ 各博物館協会協議会等への参加

- ・日本博物館協会、関東博物館協会、千葉県博物館協会（令和6・7年度役員）、君津地方公立博物館連絡協議会へ参加し、各種団体及び機関との事業連携を図ります。

##### ④ 博物館周辺の景観整備

- ・緑地管理
- ・万葉植物園等屋外附属施設管理
- ・公園管理組合との共通認識をもった管理

##### ⑤ 国県等の博物館施策及び文化財保護行政の動向把握

- ・文化財保護法や文化芸術基本法の改正に基づく国県等の動向並びにこれからの博物館制度の動きを把握する。

##### ⑥ 庁内関係各課との連携

- ・生涯学習課と連携し、山野貝塚整備計画及び山野貝塚展示室の充実を図るための検討を行う等、文化財情報の共有や協働事業の実施により相乗効果を高める。
- ・公民館・図書館との連携

|   |  | 内容等   | 4月                         | 5月                                | 6月                                    | 7月   | 8月  | 9月                                   | 10月                                    | 11月   | 12月                                | 1月                                      | 2月                                      | 3月 |
|---|--|---|----------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------|--|---|--------------------------------------|--|---|------------------------------------|---|---|----|
| 博物館協議会  |  | 年3回開催   |                            |                                   |                                       | 第1回  |   |                                      |  | 第2回   |                                    |   | 第3回                                     |    |
| 博物館運営事業   |  |   |                            |                                   |                                       |  |   |                                      |  |   |                                    |   |   |    |
| 教育普及事業  | ミュージアム・フェスティバル   | 年1回開催   |                            | 第2回実行委員会                          | 6日(土)・7日(日)<br>第3回実行委員会               |  |   |                                      |  |   |                                    |   |   |    |
|   | 講座 袖ヶ浦学  | 年5回開催   |                            | 第182回袖ヶ浦学(友の会共催)                  |                                       | 第183回袖ヶ浦学                                      |   |                                      | 第184回袖ヶ浦学                              | 考古学講座   | 第185回袖ヶ浦学                          |   | 第186回袖ヶ浦学                               |    |
|   | 博物館学芸員実習   | 7月22日～7月29日(7日間) 1名予定   |                            | ・大学からの実習依頼文<br>・回答                |                                       | 実習予定表作成・送付<br>7月22日(水)～7月29日(水)(7日間)           | 7月22日(水)～7月29日(水)(7日間)<br>博物館実習<br>大学宛評価表送付 |                                      |  |   |                                    | 令和9年度要項作成・HP掲載                          |   |    |
|   | 上総掘り井戸掘削事業   |   |                            | 掘削場所調整(アスファルト撤去・木材発注等)            |                                       |  |   |                                      |  |   |                                    | アシバ組み立て                                 | 掘削                                      |    |
|   | その他  |   |                            |                                   |                                       | ジュニア学芸員体験講座                                    |   |                                      |  |   |                                    |   |   |    |
| 博学連携事業  | 校外学習支援等  | 体験学習支援 学習相談対応 資料・図書貸出   |                            | 小学校6年生 校外学習                       |                                       |  |   |                                      |  |   |                                    | 小学校3年生 校外学習                             |   |    |
|   | 出前授業・展示  | アウトリーチ 出前展示の実施  |                            |                                   |                                       |  |   |                                      |  |   |                                    |   |   |    |
|   | その他  |   |                            |                                   |                                       |  |   |                                      |  |   |                                    |   |   |    |
| 展示更新推進事業  | 特別展・企画展  | 企画展年2回開催  | R7年度企画展Ⅲ「袖ヶ浦の美術Ⅲ 飯塚勝康展」～4月 |                                   |                                       | 企画展Ⅰ「みんなの昭和、わが家の100年」<br>7月4日(土)～8月23日(日)      |   |                                      |  | 企画展Ⅱ「星の導き、天の声」<br>10月3日(土)～12月13日(日)<br>・企画展関連講演会・関連バスツアー・展示解説会 |                                    |   |   |    |
|   | トピックス展 ミニ展示  |   |                            |                                   |                                       |  |   |                                      |  |   |                                    | ロビー展示「日本の郷土風」                           |   |    |
|   | アクアラインなるほど館  |   | 閉館準備 模型移設                  | 本館展示運用開始 広報・HPで周知                 |                                       | 休憩施設・収蔵庫運用開始                                   |   |                                      |  |   |                                    |   |   |    |
|   | 旧進藤家住宅   |   |                            | 五月人形展示(市民学芸員)                     | 盆栽展(ミュージアムフェスティバル)                    |  | 十五夜展示(市民学芸員)                                |                                      | 盆栽展                                    |   |                                    |   | ひな人形展示(市民学芸員)                           |    |
| 万葉植物園   | 屋外施設の活用  |   |                            |                                   |                                       |  |   |                                      |  |   |                                    |   |   |    |
| 地域資料管理活用事業  | 資料管理活用   | ・収蔵資料保存管理活用<br>・資料燻蒸<br>・環境調査委託                                       |                            |                                   | 環境調査(1回目)                             |  |   |                                      | 環境調査(2回目)                              |   |                                    | 資料燻蒸                                    |   |    |
|   | 史料修復 奈良輪漁協   |   |                            |                                   | 史料修復委託執行 伺い・契約                        |  |   |                                      |  |   | 史料修復成果品納品                          |   |   |    |
|   | 『市史研究』第23号   | 編集・刊行   |                            |                                   |                                       |  |   |                                      |  |   |                                    |   |   |    |
| 市民学芸員協働事業   | 市民学芸員活動  | 体験学習支援 自主企画展企画ほか<br>・万葉グループ第3土曜日午前活動(万葉植物園)<br>・葉月の会 第3土曜日午後活動(体験学習室) |                            | 五月人形展示(旧進藤家住宅)                    | 6日(土)・7日(日) ミュージアム・フェスティバル            |  |   | 十五夜展示(旧進藤家住宅)                        | 21日(水)第1回市民学芸員フォローアップ研修                |   | お飾りづくり                             | 22日(日)第2回市民学芸員フォローアップ研修(市民学芸員養成講座と合同)   | ひな人形展示(旧進藤家住宅)                          |    |
|   | 市民学芸員養成講座  | 年間11回・広報で募集   | 18日(土)市民学芸員養成講座①オリエンテーション  | 9日(土)市民学芸員養成講座②小学校6年生体験学習スタッフ養成講座 | 20日(土)市民学芸員養成講座③博物館の仕事を見よう「バックヤードツアー」 | 23日(木)または25日(土)市民学芸員養成講座④IPMIについて学ぼう(博物館実習と合同) | 22日(土)市民学芸員養成講座⑤そではく大解剖！そではく辛口採点会           | 19日(土)市民学芸員養成講座⑥博物館の調査研究とフィールドワークの心得 | 10日(土)市民学芸員養成講座⑦フィールドワーク実習             | 14日(土)または21日(土)市民学芸員養成講座⑧その博物館を見に行こう(バス移動講座)                    | 19日(土)市民学芸員養成講座⑨小学校3年生体験学習スタッフ養成講座 | 23日(土)市民学芸員養成講座⑩資料整理の基礎                 | 20日(土)市民学芸員養成講座⑪修了式・記念講演会(フォローアップ研修と合同) |    |
| 施設管理事業  | 施設の修繕・工事等  |   |                            |                                   |                                       |  |   |                                      |  |   |                                    |   |   |    |
| 友の会 7グループ(仏像を学ぶ会、太古の会、風の会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会、植物画の会)活動 | 協働事業:自然と歴史の散策会(年2回)ほか<br>第2・4金曜日古文書いろはの会<br>毎週水曜日機織りの会 | 総会  |                            |                                   | 6日(土)・7日(日) ミュージアム・フェスティバル            |  |   |                                      | 第1回役員会                                 | 第2回自然と歴史の散策会  |                                    | 新春風揚げ大会                                 | 第2回役員会                                  |    |
| 上総掘り技術伝承研究会   | 定例活動日 毎週日曜日・又は土曜日                                      | 総会  |                            |                                   | 6日(土)・7日(日) ミュージアム・フェスティバル            |  |   |                                      |  |   |                                    |   |   |    |
| 休館日   |  | 6日(月)・13日(月)・20日(月)・30日(木)  | 7日(木)・11日(月)・18日(月)・25日(月) | 1日(月)・8日(月)・15日(月)・22日(月)・29日(月)  | 6日(月)・13日(月)・21日(火)・27日(月)            | 3日(月)・10日(月)・12日(火)・17日(月)・24日(月)・31日(月)       | 7日(月)・14日(月)・24日(木)・28日(月)                  | 5日(月)・13日(火)・19日(月)・26日(月)           | 2日(月)・4日(水)・9日(月)・16日(月)・24日(火)・30日(月) | 7日(月)・14日(月)・21日(月)・26日(土)～31日(木)                               | 1日(金)～4日(月)・12日(火)・18日(月)・25日(月)   | 1日(月)・8日(月)・12日(金)・15日(月)・22日(月)・24日(水) | 1日(月)・8日(月)・15日(月)・23日(火)・29日(月)        |    |

### 議題(3)その他

## 「アクアラインなるほど館」について

郷土博物館では、「アクアラインなるほど館」の入館者増加を図るため、令和元年度までは年7回程度のロビー展示などの事業を行うことにより、年間1万人以上の来館者を維持してきた。

しかしながら、「アクアラインなるほど館」は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年3月から令和4年1月まで休館とし、その後再開したものの、期間公開や常駐受付を廃止した随時公開としてきた。

このような状況を踏まえ、この度「アクアラインなるほど館」の展示物並びに施設について、有効活用を図るために見直しを行った。

今後は、希少価値が高く、建設資料としても重要性の高い展示物をより多くの来館者に見学していただくため、本館に移設して常設展示することし、そして施設(建物)については、ロビーを博物館並びに公園利用者の休憩施設(クーリングシェルター)や情報発信の場として、またアクアライン展示室は埋蔵文化財等の収蔵施設として、新たに活用することとする。

#### 1 「アクアラインなるほど館」施設概要

- ①設置目的:東京湾アクアライン建設事業を本市にかかわる歴史的事業として位置付け、郷土博物館活動の一環として関係資料を収集・公開し、広く一般の利用に供することを目的とする。
- ②開館日:平成10年12月18日(金)(開館式典同日開催)(築27年経過)
- ③施設基本データ
  - 所在地:袖ヶ浦市下新田1133
  - 建 物:鉄骨1階建て、建築面積 245.24㎡
- ④展示物 アクアライン関係模型等 56点・パネル 34点

#### 2 「アクアラインなるほど館」及び郷土博物館の現状と課題

##### 【「アクアラインなるほど館」の現状と課題】

- ①現在は受付を常駐していないため、見学希望があるときにあわせてその都度、開館対応している。
- ②来館者数はコロナ禍以前と比較すると1/30程度となっている。  
(令和元年度 11,337人、令和5年度 407人、令和6年度 324人、令和7年度 274人(1月末現在))

##### 【郷土博物館の現状と課題】

- ③既存の地域資料の収蔵場所が飽和状態であり、新たな収蔵場所の確保が必要である。

### 3 新たな活用の詳細

- ・「アクアラインなるほど館」の一部の模型やパネル等の展示物については、本館に移設し常設展示とする。
- ・「アクアラインなるほど館」の施設については、ロビーを博物館並びに公園利用者の休憩スペース(利用可能日:博物館開館日と同日、利用時間:9:00~16:30)として使用し、また情報発信の場としても活用する。(既存のテーブル・椅子を利用。自動販売機を設置する。)
- ・展示室は収蔵スペースとして活用する。(ロビーと展示室の境には、仕切る扉を設置する。)

### 4 譲渡を受けた建物・展示物の取扱いについて

- ・東日本高速道路株式会社関東支社東京湾アクアライン管理事務所及び前田建設株式会社に今後の活用について説明し、承諾を得ている。

### 5 今後の予定

令和8年4~5月 諸準備

アクアラインなるほど館の閉鎖  
設備整備及び模型移設

令和8年 5月 本館展示運用開始・周知活動(広報そでがうら、HP等)

7月 休憩施設・収蔵庫運用開始